

つながり

Vol.24

令和3年3月

東北ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会 会長等合同 会議を開催

例年、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、仙台市、山形県、福島県の会長及び事務局が集まり、東北ブロック研修の運営や情報交換を主な内容として、会議を年3回開催しています。

今年度は、新型コロナの影響により、第1回会議は、岩手が主催となる東北ブロック研修(11月)について、7月に書面で開催し、延期を決定しました。

オンライン環境が整ったことから、第2回会議は、令和3年2月4日(木)に、Zoomを使って開催しました。

情報交換では以下のような活動が紹介されました。

- 山形では、会員センターのオンライン環境を調査したところ、5割で対応不可であることが分かった。Zoomの操作方法を含めた研修の必要性を感じている。
- 地域包括支援センターでコロナ感染が発生した場合、郡山市では、閉鎖となったセンターの所属するブロック内で支え合うことで協議が整っている。
- 秋田では、センターの活動事例集を3月に発行予定。
- 仙台では、フレイル対策のDVDを作成予定。

また、令和3年度の東北ブロック地域包括・在宅介護支援センター職員研修会は、次のとおり開催することとなりました。

日にち:令和3年11月11日(木)~12日(金) 会場:ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING
会場参集は原則として岩手県内在住の方に限定し、オンライン参加の環境もつくる予定です。

地区協議会の取組紹介

【盛岡地区】

令和2年度 盛岡地区地域包括・在宅介護支援センター協議会研修会

11月に開催を予定していた「地域包括・在宅介護支援センター職員研修会」は、圏域内でクラスターが発生したため、急遽延期し、3月19日に全面オンライン形式で開催しました。

講師にふくしの人づくり研究所所長の奥田亜由子先生を迎え、参加者は26名、役員8名の計34名でした。

テーマは、「包括的支援体制構築に向けた地域包括・在宅介護支援センター・介護支援専門員の連携のあり方」で、地域包括がケアマネジャーに求めているもの、ケアマネジャーが地域包括に求めているものを出し合い、今後、連携のためにどのような取組が必要なのか共有することが研修の目的でした。

オンラインでもグループに分かれてディスカッションを行い、忌憚のない意見や、前向きな提案が多く出され、全体で共有することができました。参加者からは「意外とオンラインは快適だった」「オンラインでも十分に話し合えた」といった感想が寄せられました。

11月開催時に比べ、参加者は減ってしまいましたが、コロナ禍でも安心して受けられる研修会の工夫、ICT活用へのチャレンジが求められているように思います。



地区協議会の取組紹介

【県南地区】

令和2年度 県南地区地域包括・在宅介護支援センター協議会研修会

令和2年7月17日(金)に、奥州市江刺生涯学習センターを会場に開催しました。コロナ禍ではありましたが、この当時、岩手県内の感染者が確認されていない状況を踏まえ、感染防止対策を講じ25名の参加を頂きました。

当初、案内したものの当日の参加者がどのくらいになるか不安が募りましたが、心配をよそに多くの事業所に参加いただきました。各事業所、自己紹介をしながら現状と課題をお話いただき、その後、5グループに分かれて普段の業務の中での課題や悩みなどざっくばらんに話し合いました。話し合い後、グループでの話を全体共有しました。

【共通する課題】

- ・ 認知症の方の対応
- ・ 多問題世帯(8050など)
- ・ SCの仕事が多い
- ・ 同じ包括圏域の中でも郊外では買い物難民、移動手段の問題が多い
- ・ 県南地区では奥州市が直営から委託に変更になったばかりで、住民への周知がまだ十分ではなく、訪問しても「どこの人？」ということがあり、顔の見える関係づくりが大切 等

【参加者からのアンケート】

- ・ 他地域の現状を知り現場レベルでの身近な事例を踏まえて多くの情報交換、考え方も学ぶことができ良かった
- ・ コロナ禍ではあったが皆さんと顔合わせることができて良かった
- ・ ストレス発散できた 等

上記のような声をいただき、コロナ禍という状況ながらも開催することができ、良かったと感じました。今後もこのような情報交換、実践例をグループワークで話し合いたいという意見もいただきましたので、来年度も顔の見える関係を築き、地区での研修会を開催していきたいと思えます。



【発行人】渡辺均・佐々木貴洋

【発行】社会福祉法人岩手県社会福祉協議会
高齢者福祉協議会

岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会

【連絡先】〒020-0831盛岡市三本柳8地割1番3

TEL019-637-4466FAX019-637-4255

今年度、第2回の広報紙を年度末にやっと発行することができました。

各地区とも、コロナ禍の中での活動に非常に頭を悩ませながら方向性を決めており、各地区の理事や役員の皆さんのご苦勞が伺えました。

今後も、どのような動向になるのか予測が難しい状況にあります。そんな中でも、各地区の情報を知ることで見えてくるものもあるかと思えます。今後も、取組の参考になるような情報を掲載できたらと考えます。

今後も紙面充実のため、掲載したい情報等ありましたら、お知らせください。